

ISSN 1881 - 980X

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

発行：吉田 淳

事務局：愛知教育大学理科教育講座 内

URL：<http://www.jsse.jp>

2009.12.15

NO.195

科学教育研究レター



目 次

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| ■ 理事会だより | ■ 研究会・支部だより |
| 第237回理事会報告……………2 | 平成21年度 第2回研究会・ |
| 第238回理事会報告(案)……………3 | 九州沖縄支部会 開催報告……………6 |
| ■ 年会 | 平成21年度 第3回研究会・ |
| 第34回年会開催案内(第2次)……………4 | 南関東支部会のご案内……………8 |
| ■ 若手の会……………5 | ■ 編集理事会だより……………9 |
| | ■ 会員の声 |
| | 日本科学教育学会論文賞をいただいて…11 |
| | ■ 広報委員会からのお知らせ……………12 |

日本科学教育学会第 237 回理事会報告

(要点のみ参考掲載)

日時 2009年8月24日(月) 15:00～16:00
会場 同志社女子大学今出川キャンパス 純正館5階 S501
出席者 会長 吉田
理事 飯島、稲垣、岩崎、荻原、加藤、坂谷内、
丹沢、土田、中山、東原、藤岡、益子、
吉岡、吉川、渡辺
年会企画委員長 高藤

1. 議事要録(案)の承認
○第236回議事要録(案)を承認した。
2. 第237回理事会までの電子会議による審議事項
○2008年度決算・2009年度予算案について審議し、原案通り承認した(7月21日)。
3. 報告事項
 - 1) 庶務・事務局
○後援名義の使用を許可した広島大学国際シンポジウム(第1回戦略的環境リーダー育成拠点国際シンポジウム)より、実施要領を受領した(7月1日)。
○学術著作権協会からの現況調査に関する依頼に対応した(7月13日)。
 - 2) 経理・会員
○入会希望者(～8月17日)の電子会議審査について
事務局からの発議により、6月19日までに入会を希望した6名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された(7月2日)。
事務局からの発議により、6月26日までに入会を希望した7名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された(7月2日)。
事務局からの発議により、7月22日までに入会を希望した6名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された(7月30日)。
○入会者について
事務支局より承認の通知および入会手続きの案内を行い、入会金・年会費の振込が確認された32名が正式に入会となった(8月17日)。
 - 3) 機関誌編集
○機関誌編集状況について次のように報告された。
 - ・新規投稿論文(2009. 6. 13～2009. 8. 8): 5篇(内訳: 和文5篇、英文0篇)
 - ・査読中論文(8月8日現在): 15篇(内訳: 3篇: 1回目、4篇: 再投稿待ち、4篇: 2回目、0篇: 査読員選定中、1篇: 担当編集委員選定中、3篇: 担当編集委員による総合判定中)
 - ・掲載決定論文(8月8日現在): 11篇(内訳: 研究論文9篇、プラザ2篇(33-3: 11篇))
 - 特集「学習場面における他者との関わり」の準備状況について報告された。
 - 4) 年会企画
○第33回年会(京都大会)の準備状況等について報告された。
 - 5) 研究会
○2009年度研究会実施の概要について報告された。
 - 6) 広報・IT化
○メールマガジンについて報告された。
○広報体制について報告された。

4. 協議事項

1) 退会希望者等について

○退会希望者 51 名を承認した。

*現在会員数 1,271 名 年度末退会者を含む。

(正会員 1,184 名、学生会員 73 名、公共会員 1 名、賛助会員 3 名、名誉会員 10 名)

2) 機関リポジトリの対応について

○編集委員会から機関リポジトリへの対応に関して提案があったが、継続審議となった。

3) 学会組織運営の改善の方向性について

○会長より役員選挙関連の提案がなされ、今後検討することになった。

次回理事会予定

第 238 回：2009 年 11 月 21 日（土）14 時から 17 時 内田洋行(株)潮見オフィス 8 F 会議室

日本科学教育学会第 238 回理事会報告（案）

（議事要録承認前。要点のみ参考掲載）

日 時 2009 年 11 月 21 日（土）14:00～17:00

会 場 株式会社内田洋行 潮見オフィス 8 F 会議室

出席者 会長 吉田

理事 飯島、稲垣、岩崎、荻原、佐伯、坂谷内、
土田、中山、東原、藤岡、益子、吉岡、吉川

監事 鶴岡

年会企画委員長 高藤

顧問 大木

1. 議事要録（案）の承認

○第 237 回議事要録（案）を承認した。

2. 第 238 回理事会までの電子会議による審議事項

○筑波大学・アジア太平洋経済協力国際会議 (IV)「授業研究による算数・数学 教育の革新-国際調査上位国の評価法改善と開発途上国に対する国際教育協力に係る教材開発-」について、講演名義の使用申請を承認した（10 月 15 日）。

○年会企画委員会から第 34 回年会に関する意見提出の要望がなされ、現在継続審議中である。

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

○第 33 回定時総会の議事録署名が完了した（9 月 10 日）。

○日本学術会議協力学術研究団体フォローアップ調査について回答した（9 月 10 日）。

○CiNii への学会関係学術資料の掲載の遅延について報告された（9 月 15 日）。

○学会刊行物の転載にかかわる問い合わせについて報告された。

2) 経理・会員

○入会希望者（～10 月 20 日）の電子会議審査について

事務局からの発議により、8 月 31 日までに入会を希望した 3 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（9 月 9 日）。

事務局からの発議により、9 月 11 日までに入会を希望した 3 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（9 月 18 日）。

事務局からの発議により、10 月 7 日までに入会を希望した 3 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（10 月 20 日）。

○入会者について

事務支局より承認の通知および入会手続きの案内を行い、入会金・年会費の振込が確認された 11 名が正式に入会となった（10 月 30 日）。

3) 機関誌編集

- 機関誌編集状況について報告された。
 - ・新規投稿論文(2009. 8. 9～2009.11.12)：38篇(和文37篇、英文1篇)
 - ・査読中論文(11月12日現在)：32篇(23篇：1回目、3篇：再投稿待ち、4篇：2回目、2篇：担当編集委員による総合判定中)
 - ・掲載決定論文(11月12日現在)：8篇(研究論文8篇、第33巻、第4号)
- 第34巻2号(特集号)編集状況について報告された。

4) 年会企画

- 第33回年会(京都大会)について報告された。
- 平成21年度の年会企画委員会の組織体制について報告された。
- 第34回年会(広島大会)の準備状況が報告された。

5) 研究会

- 本年度の開催状況について報告された。平成21年度は、岩手大学(11月8日東北支部)が無事終了している。

6) 学術交流

- 教科「理科」関連学会協議会(CSERS)により、2009(平成19)年12月12日13:00に日本化学会館講堂において第14回シンポジウム「新高等学校学習指導要領理科を实践する上での課題」が開催される。

7) 広報・IT化

- 学会Webサイトからの科学教育研究レターのダウンロード数等が報告された。
- メールマガジンの登録数が増加していない状況が報告された。

4. 協議事項

1) 退会希望者等について

- 退会希望者 6名を承認した。
 - *現在会員数1,277名 年度末退会者を含む(2009年10月30日付け)。
 - (正会員1,189名、学生会員74名、公共会員1名、賛助会員3名、名誉会員10名)

2) 名誉会員について

- 名誉会員に関する規程の整備等が提案され、継続審議となった。

3) 年会について

- 開催校決定に関する改善手続きが提案され、継続審議となった。
- 2011年度開催校案が提案され、継続審議となった。

4) 事務支局における業務契約について

- 年会論文集の保管部数契約の変更が承認された。

5) 役員選挙について

- 選挙管理委員会が設置された。選挙管理委員には、益子理事、藤岡理事、吉岡理事が会長より指名された。委員長は益子理事が務めることになった。

6) その他

- 機関誌掲載論文、研究会研究報告論文、年会論文集論文等における著作権規程等の改正の方向性が議論され、継続審議となった。
- IT化推進委員会が当初の目的を完了したことにより解散とされた。

次回理事会予定

第239回：2010年3月13日(土)14時から17時(株)内田洋行 潮見オフィス 8F会議室

年 会

第34回年会 開催案内(第2次)

1. 年会テーマ：現在検討中です。
2. 日程：平成22(2010)年9月11日(土)～12日(日)
3. 会場：広島大学(東広島キャンパス：教育学研究科、学士会館)
(〒739-8524 東広島市鏡山1-1-1)

・アクセス方法

J R 西条駅前からバス「広島大学」行に乗り、「広大北口」で下車。
(所要時間約 20 分、詳細は下記 URL 参照)
<http://www.hiroshima-u.ac.jp/top/access/index.html>

4. 主催：日本科学教育学会（後援：未定）

5. 年会実行委員会：

〔委員長〕岩崎秀樹（広島大学）

〔委員〕磯崎哲夫、小山正孝、清水欽也、馬場卓也、山口武志、木下博義、松浦拓也

6. 連絡先：〒 739-8524 東広島市鏡山 1-1-1

広島大学大学院教育学研究科

岩崎秀樹 E-mail : jsse34@hiroshima-u.ac.jp

7. 内容：次の内容を予定しています。（決定次第、年会ホームページに掲載します）

(1) シンポジウム：現在検討中です。

(2) 招待講演『科学教育研究セミナー』：特定の分野でアクティブに研究を進めている先生方をお招きし、会員向けに専門的なお話を聞かせて頂く招待講演です。日本科学教育学会論文賞受賞者をお招きする予定です。

(3) 学会企画課題研究発表：第 33 回大会の継続を含めて数件の発表を予定しています。

(4) 公募企画：①自主企画課題研究発表、②一般研究発表、③インタラクティブセッション。

(5) その他の企画：①総会、②懇親会、③若手の会、④各種会合等。

(※) 日程、設備等の条件を検討した結果、第 34 回年会ではワークショップを実施しないこととしました。

8. 企画募集予定（年会 Web およびレター誌 No. 196 に詳細を掲載予定）

(1) 自主企画課題研究発表：特定のテーマについて徹底的に議論できる場です。

・一次受付締切：平成 22 年 3 月 13 日（土）（オーガナイザー）

・企画受付締切：平成 22 年 4 月 6 日（火）（オーガナイザー）

・受理審議期間：平成 22 年 4 月 7 日（水）～4 月 12 日（月）（年会企画委員会）

・審議結果報告：平成 22 年 4 月 14 日（水）（年会企画委員会）

・発表者の最終確定：平成 22 年 5 月 14 日（金）（オーガナイザー）

・原稿締切：平成 22 年 6 月 14 日（月）（オーガナイザー）

(2) 一般研究発表

・発表申込みと原稿受付期間：平成 22 年 5 月 24 日（月）～6 月 13 日（日）

・原稿締切：平成 20 年 6 月 13 日（日）

(3) インタラクティブセッション：研究内容についてインタラクティブにじっくりと語り合う場です。

・発表申込みと原稿受付期間：平成 22 年 5 月 24 日（月）～6 月 13 日（日）

・原稿締切：平成 20 年 6 月 13 日（日）

若手の会

【第 34 回年会（広島大会）での会合】

現在、年会企画委員会で検討を進めています。企画が決まりましたら、学会レター、年会ホームページ、メーリングリストなどでお知らせいたします。お楽しみに。

【若手の会メーリングリストのご案内】

JSSE 若手の会では、山形大学の加納寛子先生のご支援により、メーリングリストを立ち上げています（加納先生、ありがとうございます）。参加者のみなさんと相互に、国際会議、新刊案内、求人など、研究情報を交換しています。

参加をご希望される方は、下記の要領でご連絡ください。

- ・申込先アドレス（加納先生）：kanoh@pbd.kj.yamagata-u.ac.jp
- ・件名：科学教育学会若手の会 ML 登録希望

また、登録アドレスの変更または削除についても、必ず上記加納先生宛にご連絡くださいませうお願いします。

■第34回年会「若手の会」企画担当委員

青山和裕（愛知教育大学）kaoyama@aeu.ac.jp

松浦拓也（広島大学）takuyam@hiroshima-u.ac.jp

三宅志穂（神戸女学院大学）miyake@mail.kobe-c.ac.jp

山口悦司（宮崎大学）etuji@cc.miyazaki-u.ac.jp

研究会・支部だより

平成21年度 第2回研究会・九州沖縄支部会 開催報告

表記の会は平成21年11月28日（土）、鹿児島大学教育学部にて、九州沖縄地区、近畿地区から29件の研究発表申込み、55名の参加者を迎えて開催されました。研究会テーマは、「複数領域をつなぐ科学教育研究と実践」でした。

発表プログラムを以下に示します。各発表の要旨は、学会webの研究会・支部にpdfファイルが掲載されていますので、ご参照ください。

[日 程]

- 9:30 - 10:00 受付
- 10:00 - 10:10 開会
- 10:15 - 11:55 研究発表（午前の部）
- 11:55 - 13:00 昼休憩・支部総会
- 13:00 - 14:40 研究発表（午後の部 前半）
- 14:40 - 15:00 休憩
- 15:00 - 16:40 研究発表（午後の部 後半）
- 16:40 - 16:50 閉会

A会場 座長：西野秀昭（福岡教育大学）・草場聡宏（佐賀大学）

A 01 10:15 - 10:35 学校の理科学習と地域の科学教育に対する大学生の意識

○海野桃子（福岡教育大学大学院）・安藤秀俊（国士舘大学）・森藤義孝（福岡教育大学）

A 02 10:35 - 10:55 教員志望の大学生における科学用語の適用に関する研究

○石川舞希（福岡教育大学）・廣重祐介（福岡教育大学大学院）・森藤義孝（福岡教育大学）
坂本 憲明（福岡教育大学）

A 03 10:55 - 11:15 小学校理科教科書での科学用語の取り扱いに関する基礎的研究

○廣重祐介（福岡教育大学大学院）・森藤義孝（福岡教育大学）・坂本憲明（福岡教育大学）

A 04 11:15 - 11:35 理科授業場面における学習の進捗状況の調整に関する基礎的研究

○高田有紀美（佐賀大学大学院）・佐藤寛之（佐賀大学）

A 05 11:35 - 11:55 理科カリキュラムの連続性に注目した授業実践研究4つなごりを
導く理科の授業要素－

渡邊重義（熊本大学教育学部）

B会場 座長：世波敏嗣（佐賀大学）・八田明夫（鹿児島大学）

B 01 10:15 - 10:35 地域の自然を核に化学・生物・地学を総合する学習会の試み－第5回無垢島自然体験学習会への参加者アンケートから－

○牧野治敏（大分大学）・高濱秀樹（大分大学）・田中 均（熊本大学）・島田秀昭（熊本大学）
・土田 理（鹿児島大学）・平井正則（元福岡教育大学）・中西 史（東京学芸大学）
御代川貴久夫（一橋大学）

B 02 10:35 - 10:55 原爆に関するVR教材と携帯端末を用いた授業実践と評価

○藤木 卓（長崎大学教育学部）・北原加保里（長崎大学大学院教育学研究科）・寺嶋浩介（長崎大学教育学部）・森田裕介（早稲田大学人間科学学術院）・竹田 仰（九州大学芸術工学研究院）・相原玲二（広島大学情報メディア教育研究センター）・近堂 徹（広島大学情報メディア教育研究センター）・柳生大輔（長崎大学情報メディア基盤センター）

B 03 10:55 - 11:15 理科実験が苦手な教師を支援するマンガ教材の開発と評価

○大黒孝文（同志社女子大学 / 神戸大学大学院人間発達環境学研究科）・中村久良（ナリカ株式会社）・竹中真希子（大分大学教育福祉科学部）・稲垣成哲（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）

B 04 11:15 - 11:35 博学連携における教師教育の現状と課題－科学系博物館を事例として－

○新小田かほり（福岡教育大）・坂本憲明（福岡教育大学）

B 05 11:35 - 11:55 理科離れを引き起こす要因に関する研究－子どもと教師の意識のずれを中心に－

○石川智恵（福岡教育大）・坂本憲明（福岡教育大学）

11:55 - 13:00 昼休憩（12:40 - 12:55: 九州沖縄支部総会（204 教室））

A会場 座長：森藤義孝（福岡教育大学）・藤木 卓（長崎大学教育学部）

A 06 13:00 - 13:20 「屋上緑化」や「グリーンカーテン」の温度測定とその効果

○軸丸勇士（元大分大学教育福祉科学部）・黒永俊弘（中津市教育委員会）・岩尾雅広（中津市教育委員会）・木下和彦（中津市教育委員会）

A 07 13:20 - 13:40 巻貝（イボニシ）を教材とした環境教育

島田秀昭（熊本大学教育学部）

A 08 13:40 - 14:00 小学生を対象とした身近な自然からESDに広がる学習カリキュラムの開発（1）－Panasonic 製ホームベーカリー（2009）で作った「米粉100%食パン」と「小麦粉食パン」の食べ比べを通して考える「食教育」と「ESD」のクロスカリキュラム構想（1）－

東 徹哉（津久見市立青江小学校）

A 09 14:00 - 14:20 小学校教師の専門性に関する事例研究：植物園を活用した理科授業プログラム開発からの検討

○三宅志穂（神戸女学院大学人間科学部）・山田智尋（京都府宇治市立南部小学校）・野上智行（神戸大学名誉教授）

A 10 14:20 - 14:40 定点観測映像の防災・気象教育における利用

○飯野直子（熊本大学教育学部）・金柿主税（熊本県甲佐中学校）

B会場 座長：坂本憲明（福岡教育大学）・佐藤寛之（佐賀大学）

B 06 13:00 - 13:20 喜界島から産出する有孔虫化石を活用した理科教育

八田明夫（鹿児島大学教育学部）

B 07 13:20 - 13:40 ロシアにおける化学の統一国家試験と第9学年修了試験

山路裕昭（長崎大学教育学部）

B 08 13:40 - 14:00 科学教育における科学史教育－佐賀大学における実践例を中心に－

世波敏嗣（佐賀大学文化教育学部）

B 09 14:00 - 14:20 明治30年代の鹿児島県における理科授業について－直観教授・郷土科に注目して－

○服部直樹（鹿児島大学教育学研究科）・八田明夫（鹿児島大学教育学部）

B 10 14:20 - 14:40 統計的探究プロセスを取り入れた授業の工夫

○豊田博司（みやき町立三根中学校）・草場聡宏（佐賀大学文化教育学部）

14:40 - 15:00 休憩

A会場 座長：山路裕昭（長崎大学）・渡邊重義（熊本大学）

A 11 15:00 - 15:20 空気の膨張に関する子どもの認識

○都甲歩未（福岡教育大学大学院）・森藤義孝（福岡教育大学）

A 12 15:20 - 15:40 理科学習における言語活動の充実に関する研究－中学校第1分野「圧力」単元を中心として－

○川上泰司（福岡教育大大学院）・花村幸次郎（宮若市立若宮中学校）・坂本憲明（福岡教

育大学)

A 13 15:40 - 16:00 電磁環境教育のための教材研究と短期大学における実践

○笠置映寛(別府溝部学園短期大学ライフデザイン総合学科)・蔦岡孝則(広島大学大学院教育学研究科)・畠山憲一(兵庫県立大学大学院工学研究科)

A 14 16:00 - 16:20 褶曲について—授業を行う際の留意点—

○田中 均(熊本大学教育学部)・林 智洋(熊本市立長嶺小学校)・本多孝喜(熊本県立湧心館高等学校)・早川祐貴(熊本大学教育学研究科)・田口清行(熊本市立教育センター)・村本雄一郎(熊本県立教育センター)

A 15 16:20 - 16:40 奄美大島北部及び南西部沿岸より産出する現生有孔虫の特徴

○森井 聖(鹿児島大学教育学研究科)・八田明夫(鹿児島大学教育学部)

B会場 座長: 牧野治敏(大分大学)

B 11 15:00 - 15:20 小・中学校理科の生物概念の学習のために—動物植物共通としての「生き物と養分」—

正元和盛(熊本大学教育学部)・高田みゆき(熊本大学大学院教育学研究科)

B 12 15:20 - 15:40 ファストプランツの小学校における活用法—生物教材研究, 教師による評価, 授業実践まで—

○前田紗綾香(福岡教育大学大学院理科教育専攻)・西野秀昭(福岡教育大学)

B 13 15:40 - 16:00 身近なものを使った消化のしくみを学ぶ実験の工夫—味覚による体感や視覚で学ぶ—

西野秀昭(福岡教育大学)

B 14 16:00 - 16:20 消化の学習における新しい実験法の開発—特にデンプン溶液の濃度と消化時間の関係に注目して—

○新井麻里(霧島市立富隈小学校)・八田明夫(鹿児島大学教育学部)・土田 理(鹿児島大学教育学部)

(JSSE 第2回研究会企画編集委員 土田 理・鹿児島大学教育学部)

平成21年度 第3回研究会・南関東支部会のご案内

日本科学教育学会南関東支部では、平成21年度第3回日本科学教育学会研究会・南関東支部会を以下のテーマと日程で行います。どなたでもご参加いただけますので、皆さまのご参加をお待ちいたしております。

[テーマ] 実社会・実生活との関連を重視した科学教育(仮)

[主催] 日本科学教育学会南関東支部

[後援] 相模原市教育委員会

[日時] 平成22年2月20日(土) 10:00~16:30

[会場] 麻布大学 獣医学部棟7階会議室

〒229-8501 神奈川県相模原市淵野辺1-17-71 (JR横浜線・矢部駅より徒歩4分)

[担当] 岡本弥彦・福井智紀(麻布大学)

[連絡・問い合わせ先]

〒229-8501 神奈川県相模原市淵野辺1-17-71

麻布大学 生命・環境科学部 TEL(直通)& FAX 042-769-2524 (福井智紀)

E-mail fukui@azabu-u.ac.jp (福井智紀)

[発表申込締切] 平成21年12月20日必着

発表を希望される方は、氏名、所属、発表題目、E-mailアドレス、電話番号、連絡先住所、使用機器などを明記したE-mailを fukui@azabu-u.ac.jp (福井智紀) までお送りください。

発表原稿様式等については、発表申込があった方にE-mailにてお知らせいたします。

[原稿締切] 平成22年1月20日必着

[参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。学会員でない方も参加できます。

[参加費] 学会員は無料、学会員でない方は500円です。ただし、相模原市内の学校関係者は無料です。

[プログラム] ※現時点での予定です。発表件数により変更があり得ますのでご了承下さい。

- 受付開始 10:00
- 研究発表(午前) 10:30～12:10
- 昼食・支部懇談会 12:10～13:00
- 研究発表(午後) 13:00～14:40
- 特別講演 15:00～16:30
太田光明先生(麻布大学獣医学部教授)

編集理事会だより

平成21年度第2回編集理事会報告

1. 日時

平成21年11月21日(土) 11:00～14:00

2. 場所

(株)内田洋行潮見オフィス8階会議室

3. 出席者

- ・出席者 長崎栄三、中山 迅、土田 理、吉川 厚、小川義和、佐藤明子、
垣花京子、二宮裕之
- ・欠席者 鈴木栄幸、村山 功、杉本雅則、出口明子

4. 議題と報告事項

【議題】

- (1) 第1回編集委員会議事録の確認
- (2) 「科学教育研究」編集状況について
- (3) 次の特集テーマと担当者について
- (4) 学会誌の発刊日が、投稿論文採録日以前になる事例について
- (5) 第34巻各号の巻頭言と編集後記担当者について
- (6) その他

【報告事項】

- (1) 第34巻第2号の特集号について
- (2) 「科学教育研究」投稿論文中の「問い合わせ先」について
- (3) その他

5. 議事報告

【議題】

- (1) 第1回編集委員会議事録の確認
資料を確認し、原案通り認められました。
- (2) 「科学教育研究」編集状況について
資料に基づいて編集状況の報告が行われました。これに関して、以下のようなことが決まりました。
 - ・新規投稿や採録の詳細な件数表資について、新しい査読用Webシステム導入後のデータを公表する。
 - ・年度毎に論文の巻・号、タイトル、キーワードのデータを中西印刷から提供してもらい、学会事務局に送って学会Webサイトに掲載する。
- (3) 次の特集テーマと担当者について
第35巻4号で企画する特集の部会長を、垣花京子委員が担当することが決まりました。特集テーマ案や部会委員の構成について、以下のような仮の案が検討されました。詳細案については、垣花部会長がこれから作成し、メール審議などで決定してできるだけ早く会員に告知できるようにすることになりました。

テーマ（仮案）：統計的に分析・判断できるようにするための教育

担当者： 部長 垣花京子
副部長（候補者） 佐伯昭彦・坂谷内勝
幹事（候補者） 青山和裕

特集については、テーマに含むのに相応しいキーワード、国内、海外から依頼する招待論文の候補者、企業や実務関係者との連携、理論と実践-内容の取り上げ方などについて協議が行われました。そして、会員への告知をできるだけ早く行うことになりました。

- (4) 学会誌の発刊日が、投稿論文採録日以前になる事例について
学会誌の発行日と論文の採録決定日が前後する問題について協議されました。その結果、当面は予定された期日での刊行を目指すことになりました。
- (5) 第34巻各号の巻頭言と編集後記担当者について
以下のように依頼することになりました。

	巻頭言	編集後記
34-1	稲垣成哲	二宮裕之
34-2	鈴木栄幸	出口明子
34-3	年会担当理事から推薦	杉本雅則
34-4	中山 迅	村山 功

この後、編集後記で触れるべき内容について、意見交換がなされました。

- (6) その他
投稿論文の取り下げの事例について報告があり、その対応について議論を行いました。これは、査読開始後に投稿論文の著者から「辞退」の申し出があった場合の対応についてです。
規程では、理由なしでも取り下げの理由を付すことを求めている点を確認した上で、査読開始後に投稿を辞退されてしまうと依頼した査読員への説明に苦慮することから、会員に対して投稿前の論文内容を良く検討してから投稿していただくようお願いの仕方などを今後の検討課題としました。

【報告事項】

- (1) 第34巻第2号の特集号について
特集編集の進捗状況について報告された後に、査読員の選び方について議論がなされました。現在は、非学会員に査読を依頼する場合も、2名の査読員のうち少なくとも一人は会員という原則を立てていますが、特集のテーマによってはそのようにできない場合も想定されることから、特集テーマ毎に方針を決定することが望ましいことが確認されました。
- (2) 「科学教育研究」投稿論文中の「問い合わせ先」について
問い合わせ先を筆頭著者とするように求めていることに関する学会員からの意見について説明がなされました。この意見は、大学院生が筆頭著者である論文の場合は、必ずしもそれが「問い合わせ先」に相応しいとは限らず、“corresponding author”が別に存在するケースもあるとの指摘を含むものでした。これについては一理あることを認める意見もありましたが、問い合わせ先を筆頭に限定する決定をしたばかりであり、当面は現状のままで対応し、会員の意見をさらに聞いて、必要ならば対策を講じることとしました。
- (3) その他
2010年は、委員の半数入れ替えとなるため、次期編集委員候補者を挙げる準備をすることになりました。分野によっては、担当可能な編集委員が1人しかいないものがあるため、各分野での適任者を推薦してもらい、6月の編集委員会で案を出し、9月の理事会（年会時）での了承を目指すことになりました。

※ 次回の編集理事会は2010年3月13日（土）の予定です。

「科学教育研究」の編集状況報告

平成21年11月12日現在

査読状況

1. 新規投稿論文（2009.8.9～2009.11.12）：38篇（内訳：和文37篇、英文1篇）
2. 査読中論文（11月12日現在）：32篇（内訳：23篇：1回目、3篇：再投稿待ち、4篇：2回目、0篇：査読員選定中、0篇：担当編集委員選定中、2篇：担当編集委員による総合判定中）
3. 掲載決定論文（11月12日現在）：8篇（内訳：研究論文8篇、プラザ0篇（33-4：8篇））

	新規投稿論文数 (篇) 審査中 (篇)				掲載決定論文数 (掲載号)		招待論文数 (掲載号)		掲載不可論文数	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	辞退
2008年 12月	3	1			3 (33-1)		3 (32-4)		2	
2009年 1月	6	2			1 (32-4)		2 (32-4)		1	
2月	5		22	4	1 (32-4) 1 (33-2)	1 (33-2)	6 (32-4)		7	
3月	5		21	4	2 (33-2)		5 (32-4) 2 (33-1)		1	1
4月		1	16	4	4 (33-2)				1	
5月	6		17	4	1 (33-3)	1 (33-3)			3	
6月	6		22	1	3 (33-3)	2 (33-3)			1	
7月	1		14		4 (33-3)				5	
8月	6	1	19	1	1 (33-3)					
9月	6		18		3 (33-4)				3	1
10月	24		34		4 (33-4)				5	
11月	2		22						3	

会員の声

第33回定時総会において論文賞を受賞された鈴木先生・加藤先生に、本欄へ寄稿していただきました。

日本科学教育学会論文賞をいただいて

鈴木栄幸 (茨城大学)
加藤 浩 (放送大学)

第33回年会において日本科学教育学会論文賞をいただきました。大変名誉に思うとともに、今後、賞に恥じない研究を続けていくことへの重責も感じております。受賞対象論文の審査において多くの貴重なコメントをくださった編集委員、査読者の先生方、また、本論文を論文賞へ推薦してくださった先生方には、心よりお礼を申し上げます。

受賞の対象となった論文：「社会的ネットワーキングに着目したプレゼンテーション教育手法『マンガ表現法』の提案」は、プレゼンテーションの準備をする際の多声的な振り返りの重要性を指摘するとともに、それを訓練する手法としてマンガ表現法を提案し、その効果を検証したものです。

「多声的振り返り」とは、簡単にいってしまえば、自分のプレゼン内容に関連する様々な人々の事情や気持ちを想定し、かれらがどのような意見をいいそうか考慮しながら自身のアイデアを再吟味・修正することです。ここでは、他者の立場になって、他者の気持ちになって、かれらの言葉を想像し、それらの言葉と対話しながら自分のアイデアを修正、改善していくことが求められます。いわば、共感的思考が求められるのです。プレゼンテーションを初めとする説得の研究では、自分の意見やアイデアを論理的に破綻なく構成することの訓練に重きが置かれてきました。しかしながら、説得は、相手にわかってもらい、受け入れてもらうことをゴールとする行為であり、「正しい論理」が最適な説明に繋がるとは限りません。人は、個人的事情や価値観に従って物事を判断します。これら、様々な事情を汲んで、かれらにとって「受け入れ可能な論理」を組み立て、伝えていくこと。このようなことが必要だと考えています。よい説得者になるためには、従来の論理的思考訓練に加えて、共感的思考の訓練が併せて必要なのです。

では、共感的思考の訓練のために、どのような援助ができるでしょうか。本論文では、そのために、マンガという表現形式を利用することを提案しました。具体的には、自分のアイデアをマンガの形式で表現し、それを基に振り返りをおこなうという手法です。マンガには、共感的思考の支援に寄与する幾つの特徴があります。まず、マンガには、登場人物が必要です。よって、学習者は、自分のアイデアを表現するために「どんな人」を登場させようか考えなくてはなりません。これによって、アイデアに関連する人々の想定が促進されることが期待されます。また、登場人物は、自分の言葉で話します。描き手は、「その人」がいいような言葉をセリフとして設定することになります。このことが、共感的思考の訓練のために重要です。例えば、YouTubeによる著作権侵害に対する著作者の怒りを表現する際のセリフは無限にあります。「俺の作品を勝手に流すな!」と書くこともできるし、「これじゃ、俺の儲けがなくなるだろう!」、「こんな下劣なメディアに私の作品を載せたくないのだ」と書くことも可能です。ここには、「著作者の怒り」という言葉でまとめてしまっただけでは隠されてしまう、著作者の事情や彼らの社会関係に関する理解のヴァリエーションが表現されているといえます。つまり、セリフを考え、選択するという行為を通して、私たちは、そのセリフをいう人物のことをより深く理解することができるのです。加えて、マンガには、感情の表現や人間関係の表現が容易だという特徴もあります。漫符と呼ばれる簡単な記号によって怒り、悲しみ、驚きを表現できますし、人物の大きさやコマ内の位置によって、人々の関係の在り方や、その変化を表すことが容易です。これらのことも、アイデアに関連する人々に対する理解を促進します。さらに、マンガには、少なくとも日本人の学生であれば、誰にでも描けて、誰にでも読めるという良さがあります。実践において、大学生にマンガを描いてもらいましたが、マンガの描き方の指導は一切不要でしたし、振り返り段階においてマンガの読み解き方を新たに教える必要もありませんでした。このことから、マンガ表現法は、多くの教育現場において実施できる可能性を持っているといえます。

論文では、マンガ表現法の効果の検証もおこないませんでした。質問紙調査、マンガを描く過程のビデオ分析からは、マンガ表現法が、学習者を、人物志向の思考（誰が関係しているのか、それらの人々はどのような感情を持っているのか、また、どのような人間関係にあるのか、といった考え方）に導くことが示されました。また、コンセプトマップを使って問題の理解の掘り下げを検討したところ、マンガ表現法によって、関連する人や組織の関係がより広く把握されるようになることが明らかになりました。

現在、この論文で得た知見に基づいて、マンガ表現法の実施を支援するコンピュータシステムを開発し、それを使った実践研究を続けています。プレゼンテーション教育をターゲットとして始めた本研究ですが、今は、授業案の振り返り支援や議論の振り返り等にもこの手法を応用しています。今後も、このような実践研究を継続し、科学教育の発展に少しでも寄与できるように精進してまいります。この度は、本当にありがとうございました。

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第195号をお送りいたします。お気づきの点などございましたら、学会webサイトにある「お問い合わせ」(webメール)をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事：東原義訓（信州大） 荻原 彰（三重大）
 委 員：加藤久恵（兵庫教育大） 二宮裕之（埼玉大） 土田 理（鹿児島大学）
 藤岡達也（上越教育大） 渡辺政隆（科学技術振興機構）
 小倉 康（国立教育政策研） 久保田善彦（上越教育大）
 幹 事：福井智紀（麻布大） 茅野公穂（信州大）

科学教育研究レター 編集・印刷

日本科学教育学会広報委員会

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL: <http://www.jsse.jp>

□事務局 愛知教育大学 理科教育講座 内

□事務支局（入退会・会費・学会誌発送関連） TEL: 075-415-3661 FAX: 075-415-3662

E-mail: jsse@nacos.com

□編集事務局（論文投稿・査読編集）

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

TEL: 075-415-3155 FAX: 075-417-2050

E-mail: jsse-hen@nacos.com

中西印刷（株）学会部 内

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座：00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会